



霜降月の頃

「ただ過ぎに過ぐるもの、帆かけたる舟、人の齡、春夏秋冬」。清少納言の「枕草子」の一節です。

二十四節気の立冬。暦の上で冬になります。いつの間にか日が早く暮れ、夜道を歩くと肌寒い季節です。

光陰矢のごとし。正月まであと二カ月となりました。

この時季の風物詩といえは「七五三」。最近はおジョレ・ヌーボーもすっかり定着し、むしろこちらの方が話題になることも多いようです。おジョレ・ヌーボーは、フランスのボジョレ地方で造られた新酒ワインのことで、発売の解禁日が毎年11月の第3木曜日と決められています。

時差の関係で最も早く解禁されるのが日本です。話題性や女性を中心としたワインブームもあって、最近では根強い人気があります。今年も19日がその解禁日に当たります。デパートや酒店、コンビニなどの店頭に一斉にボトルが並

び、香りや味比べを楽しみにしている人も多いことでしょう。カラフルなラベルを眺めるだけで「おいしそう」と思わせるから不思議です。

一方、11月1日は1が並ぶから「ワン・ワン・ワン」の語呂合わせで犬の日です。犬は人類最古の友と言われ、2万年以上の付き合いがあるとされる説もあります。「ヌーボー」という名の犬を見かけました。きつと飼い主はワインが好きなのでしようか。子どもの頃、犬の名といえばポチが代表的だったようですが近年はジョンやチョコなどの名が人気ようです。

立冬を過ぎる頃は強い寒気が列島に接近する時季です。

立冬というと若い頃の母の姿を思い出します。家々では晩秋初冬のころ、空き樽に塩をいっぱいきかせて白菜を段々に並べ漬けていた頃の母を。白菜のあの淡泊な味は、私にとって母の味でもありません。

市内の神社に晴れ着姿の幸せそうな子どもたちの姿が見られる11月。七五三は江戸時代に生まれた行事ですが、古くから子どもの成長の節目で行われた3歳の髪置き、5歳の袴着、7歳の帯解きなどの儀礼が一つにまとめられたものだといわれます。

「七つまでは神の子」といわれた昔、子の成長を祝う袴や帯には、子が健康で幸せに育つよう願う親の切ない祈りがこめられています。

一方、子が自らの境遇を選べないのはこの世の定めですが、幸せの晴れ着で街が華やぐこの季節、あまりに残酷な運命を負った子らの不幸が胸をえぐる報道もあります。

子どもには「夢」という字が似合います。

不透明な時代を生き抜く子どもを育てるためには、大人たちのしつかりとした肩車（支え）が必要です。



指宿市長
豊留悦男